

セーフティ増刊号

論文応募作品

労働災害防止を考える
業務課副主任
佐藤 みどり



エービーエムに入社して五年目を迎えるとしています。当社は警備・清掃・設備などを主に行っていて、私は病院清掃を担当しています。八時三十分の始業ですが、自主的に時間に余裕を持って出勤し、作業の準備やラジオ体操、「社是」「安全運転の誓い」と「医療理念」の唱和をしています。ラジオ体操の際は、副主任が前と後ろに立ち、運動をしながらみんなの様子を見て「おかしいな」とおもったら無理をしないか声をかけています。労災の原因の一つには体調不良を隠し、無理をして起こったケースも多いのではないのでしょうか。自己管理も大切なことです。目配り配りをしして仲間を思いやる気持ちも災害「ゼロ」につながると思います。社是、安全運転の誓い、医療理念を毎日唱和することによって「労災ゼロ」運動の徹底した意識がもてると思います。

ニュースなどを見ていると「またか」と言いたくなる事故が繰り返されていると感じます。なぜ同じようなことが起こるのでしょいか。自分の所は大丈夫といった思い込み、この思い込みも災害の原因の一つではないでしょうか。ただの口頭だけの注意、それだけで済ませてしまいがちです。自分にもおきるかもしれないという危機感を持ち実際に似たような場面を作った十分に話し合いをする方法もあると思います。その際、社員が大勢いればその人数だけの「ヒヤリハット」したことや、予防対策の話が出されたいと思います。

労働をするということはそこに労災が起これる可能性がある訳ですから、常に一人ひとりが緊張感を持って作業し、またそれに伴う危険予知、対策などを怠ってはいけません。「大丈夫だろう。」ではなく、この作業にはこんな危険がある。そうならないためにはどう観点から作業に入ればよいと思います。これからも、社員一丸となって「労災ゼロ」を継続できるように取り組んでいきたいと思

論文応募作品
南陽営業所主任
山崎 信子

現代では、車両通勤が大半を占めており、最近のように交通事情が悪くなると、通勤の途中でたまたま事故に遭い、負傷した疾病にかかったりする例がよく見られる。新聞、テレビでは毎日のように事故の報道をしているので、身近な人ではないとあまり気にしなくなりました。

私たち、ほとんどのドライバーは初心者の時期や新車購入時および初めて通行する道路では慎重な運転をします。なぜ慎重な運転をするのでしょうか。それは慣れない運転、慣れない車、慣れない道路では「もしかしたら」という危険予測のかまえてはいるからではないでしょうか。運転操作や車、道路に慣れてくると自身がついてきて「この位のスピードは大丈夫だろう」「相手は止まるだろう」という「だらう運転」になり自分の都合に合わせてしまいます。このだらう運転やちよつとした気の緩み、余裕の無い通勤時間から大きな事故を招いてしまいます。

私は通勤時間帯に近くの交差点で、信号機が赤から青に変わり一分間で何台の車が通過するの確かめました。結果二十台の車が通過しました。出勤時間を一分早くすれば二十台追い越したことになります。二十台の車を追い越そうとしたら精神的疲労や、どのような危険が潜んでいるか想像もできません。道路を利用しているのは自分ひとりではありません。相手の車は時間に余裕のない人かも知れませんし、一時停止の標識を見落としていられるかも知れない、相手の方が優先道路だと勘違いしているかも知れないのです。自分の

通勤時間に余裕があると、普段ゆずれない事でもゆずれれるものです。

余裕がなく事故を起こして傷病する方の中には、あと一歩間違ったら命を失っていたであろうという人も多々あります。何であの時、気持ちに余裕がなかったらどうと後で反省しても遅いのです。

ここで提案です。自宅から会社までいくつの信号機があるのでしょうか。信号機一つで一分間止まるとして五ヶ所あれば今までの出勤時間より五分早く自宅を出ます。

このような考えで出勤するとゆとりが出て交差点で無理な行動がなくなり思いやりのある運転ができます。

余裕を持った通勤時間を持たないため、もし自動車事故を起こしますと刑事責任、行政責任を追究されるほか、事故の相手方に対して損害を与えた場合は賠償する民事責任を負わなければなりません。自分の車の修理や免許停止、最悪の結果は免許取消処分となります。また傷病のため入院でもすることになれば、家族や会社に多大な迷惑をかけることとなります。交通事故を起こしてしまつてからは遅いのです。

私は、甘い安全意識で通勤災害を起こさないよう、通勤時間に余裕を持ち、ゆずりあいの精神に基づき、常に危険を予測し、安全運転をしてみたいです。

設備管理課主任
渡部 昭義

ポスター応募作品

論文応募作品
南陽営業所主任
山崎 信子

現代では、車両通勤が大半を占めており、最近のように交通事情が悪くなると、通勤の途中でたまたま事故に遭い、負傷した疾病にかかったりする例がよく見られる。新聞、テレビでは毎日のように事故の報道をしているので、身近な人ではないとあまり気にしなくなりました。

私たち、ほとんどのドライバーは初心者の時期や新車購入時および初めて通行する道路では慎重な運転をします。なぜ慎重な運転をするのでしょうか。それは慣れない運転、慣れない車、慣れない道路では「もしかしたら」という危険予測のかまえてはいるからではないでしょうか。運転操作や車、道路に慣れてくると自身がついてきて「この位のスピードは大丈夫だろう」「相手は止まるだろう」という「だらう運転」になり自分の都合に合わせてしまいます。このだらう運転やちよつとした気の緩み、余裕の無い通勤時間から大きな事故を招いてしまいます。

私は通勤時間帯に近くの交差点で、信号機が赤から青に変わり一分間で何台の車が通過するの確かめました。結果二十台の車が通過しました。出勤時間を一分早くすれば二十台追い越したことになります。二十台の車を追い越そうとしたら精神的疲労や、どのような危険が潜んでいるか想像もできません。道路を利用しているのは自分ひとりではありません。相手の車は時間に余裕のない人かも知れませんし、一時停止の標識を見落としていられるかも知れない、相手の方が優先道路だと勘違いしているかも知れないのです。自分の

標語応募作品

職場の安全は コミュニケーションから
南陽営業所 山口 桂子

慣れた人 基本にもどって再確認
南陽営業所 鈴木 誠竜

安全は 確かな作業が 産む技術
業務課副主任 若井 俊光

他、皆川部長・横山仁子の二作品

論文応募作品
設備管理課主任
渡部 仁

通勤災害とその防止対策について

私は、ある施設で設備管理業務に就いています。自宅から勤務先までは自家用車で五分位の距離で、道路が混雑する前に通勤するため危険は少ないように思います。しかし、以外に危険はあちらこちらに潜んでいます。また、五分遅くなっただけで状況が一変してしまいます。そこで、私が通勤する道路で起こりうる通勤災害を考えてみました。

片側二車線または、三車線の道路を左折するためには左側車線を走行する所が二ヶ所あります。直進または右折する右側の車線が混雑していた場合、車と車の間を歩行者が横断している時は自車が出てくることもありま

た、急に車線変更して左折車線に侵入してくる車もあります。更に左側の歩道側では、自転車やバイクが後方から近づいて来ること考えられます。いくら自分が走行する車線が混雑してないからといって、スピードを緩めずに交差点に近づくと、対応が遅れ思わぬ事故につながります。さらに、前方を走行している車や対向する右折車にも注意が必要だと思

います。特に、信号が黄色のときに交差点に侵入した場合、もっとも危険ではないで

しょうか。前方の車が急停止した時には、ブレーキが間に合わず追突する場合や、対向車が右折してきたときには衝突する危険もあります。

私も以前、信号が黄色で交差点に近づき、前方の車がそのまま走行するものと思

い、スピードを加速したところ、前方の車が急にブレーキを緩め、止まろうとしたためにブレーキが間に合わず追突した苦い経験がありま

す。予めこのような状況を踏まえ、通勤災害の防止対策を私は考えてみました。

交差点を走行する際は、左側のバイク等の有無を確認しながら右側車線にも気を配ることが必要だと思います。特に右側車線や対向車線が混雑している場合、車と車の間からの歩行者や車の飛び出し、車の急な車線変更による割り込み等を予測しながら、これらに対応できるようにスピードを減速して走行することが必要だと思います。また、交差点に入つたときは、対向車線の右折車の有無を確認し、右折車があつたら自分よりも先に右折することを予測し、更に前方走行車との車間距離も十分に取ることが大切だと思います。特に通勤時間帯はあつたため、時間にゆとりがないと信号が黄色でも左右の状況を確認しな

いで交差点に侵入することが多いのではないのでしょうか。

「大丈夫だろう」という安易な気持ちが大

確かな手順で安全作業

山形県ビルメンテナンス協会
業務課副主任 石原 義一
ポスター応募作品

総合病院清掃業務
外周清掃(打ち合わせ中)にて
いきなり腕に激痛が走り振り払ったところ
蜂が落ちていた。すぐに現場の救急センター
で手当てを受けた。

新築住宅引き渡し
清掃業務
ガラス清掃にて
サッシ窓を清掃
中脚立に上がった
まま窓を動かした。
サッシ窓が重たく踏ん張ったところ
脚立がぬかりパ
ランスを崩した。とつさにエアコンの室外機
に手をつき室外機のねじに手のひらを打ちつ
け裂傷してしまつた。

双方とも休業まで至らず軽い災害で済んだ。

※画像はイメージで
正確な状況を指すものではありません。

論文応募作品
設備管理課主任
渡部 仁

通勤災害とその防止対策について

私は、ある施設で設備管理業務に就いています。自宅から勤務先までは自家用車で五分位の距離で、道路が混雑する前に通勤するため危険は少ないように思います。しかし、以外に危険はあちらこちらに潜んでいます。また、五分遅くなっただけで状況が一変してしまいます。そこで、私が通勤する道路で起こりうる通勤災害を考えてみました。

片側二車線または、三車線の道路を左折するためには左側車線を走行する所が二ヶ所あります。直進または右折する右側の車線が混雑していた場合、車と車の間を歩行者が横断している時は自車が出てくることもありま

た、急に車線変更して左折車線に侵入してくる車もあります。更に左側の歩道側では、自転車やバイクが後方から近づいて来ること考えられます。いくら自分が走行する車線が混雑してないからといって、スピードを緩めずに交差点に近づくと、対応が遅れ思わぬ事故につながります。さらに、前方を走行している車や対向する右折車にも注意が必要だと思

います。特に、信号が黄色のときに交差点に侵入した場合、もっとも危険ではないで

しょうか。前方の車が急停止した時には、ブレーキが間に合わず追突する場合や、対向車が右折してきたときには衝突する危険もあります。

私も以前、信号が黄色で交差点に近づき、前方の車がそのまま走行するものと思

い、スピードを加速したところ、前方の車が急にブレーキを緩め、止まろうとしたためにブレーキが間に合わず追突した苦い経験がありま

す。予めこのような状況を踏まえ、通勤災害の防止対策を私は考えてみました。

交差点を走行する際は、左側のバイク等の有無を確認しながら右側車線にも気を配ることが必要だと思います。特に右側車線や対向車線が混雑している場合、車と車の間からの歩行者や車の飛び出し、車の急な車線変更による割り込み等を予測しながら、これらに対応できるようにスピードを減速して走行することが必要だと思います。また、交差点に入つたときは、対向車線の右折車の有無を確認し、右折車があつたら自分よりも先に右折することを予測し、更に前方走行車との車間距離も十分に取ることが大切だと思います。特に通勤時間帯はあつたため、時間にゆとりがないと信号が黄色でも左右の状況を確認しな

いで交差点に侵入することが多いのではないのでしょうか。

「大丈夫だろう」という安易な気持ちが大

労働災害発生!

「気持ちにゆとりをもつこと」で危険予知
ができ、冷静な判断をすることで通勤災害は
防止できるとおもいます。

防ぎようのないもので
自分でも驚きました。
「フェロモン」でも
出ていたのかなあ。

編集後記
山形県ビルメンテナンス協会 平成18年度
労働災害防止論文・標語・ポスター応募作品
紹介。並びに労働災害発生時の速報として増刊
号を発行いたしました。

作品を応募された方々は本当にお疲れさま
でした。アイデアを形にして表現することは
容易なことではありません。しかし、それ

よって労働安全衛生の取り組みを全社員の皆
さんへ。また、ビルメンテナンス業界や社会
へとアピールし続けることが大切なのだろう
と考えます。

残念ながら「ゼロ災」継続の記録は三年を
目前に途絶えてしまいましたが、これから新
しい記録更新へと歩んでいきましよう。

編集 石原 2006.10.06